

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2022年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号  
電話 076-461-3200

令和5年4月21日発行（年1回発行）

手で見るぼくの世界は

檜崎茜／作 酒井以／装画・挿絵 くもん出版

「目が見えねえのに、一人で歩いてんじゃねえよ！」視覚支援学校小学部卒業を目前に、<sup>ふたば</sup>双葉は駅でぶつかった男に暴言を吐かれ、ショックのあまり登校できなくなった。

二人きりの同級生だった<sup>たすく</sup>佑は、中学部で新しい同級生たちとの寄宿舍生活を始める。<sup>はくじょう</sup>白杖を使った歩行訓練も始まるが、双葉の事件を思うとあまり乗り気がしない。しかし、事件現場の駅に行くこと、双葉に会いに行くことを目標に少しずつ一人で歩ける距離を伸ばしていく。



# 星屑すぴりっと

林けんじろう／著 講談社



イルキが慕っている年上の従兄、せいちゃんが難病を<sup>はっしょう</sup>発症し大学を中退した。「映画が見たいのう」というつぶやきを聞いたイルキは何とかして見せてあげたいと考え、同級生のハジメに相談する。その映画は、せいちゃんの卒業制作で、しかも近々京都で上映されると突き止めた二人は、家族に内緒で広島から電車に乗る。ところがハジメは、途中の大阪駅に着くなり、イルキを置いて突然電車を降りてしまった。

# かわいい子ランキング

ブリジット・ヤング／作 三辺律子／訳 ほるぷ出版

ある日突然、学校中の生徒に配信された「かわいい子<sup>あこが</sup>ランキング」。みんなが憧れるソフィーはまさかの2位で、1位は地味でさえないイヴだった。ランキングの影響で徐々に勢力図が変わる中、お互いに不利益をこうむった二人は派手な男子ブロディが背後にいると推理し手を組むことにする。演劇部のネッサも引き入れ、ブロディが主演する学校ミュージカルの本番中にその正体を暴いてやろうと作戦を開始した。



# ぼくたちのスープ運動 小さな思いやりが世界を変える!

ベン・デイヴィス／作 渋谷弘子／訳 評論社



ジョーダンには、白血病で入院していた時に同じ病室の親友と立てた誓いがあった。「役に立つことをして、1年後に世の中がどう変わるか確かめよう」

## マスク越しのおはよう

山本悦子／著 田中海帆／絵 講談社



新年度、感染症によって世の中は一変し、学校全員がマスクをするようになった。もともとマスク依存症だった千里子は、目立たなくなったことに安堵する。不登校だったさおりは、この機に乗じて外見を少し変化させ別人になったつもりで登校を試みた。美咲は、感染した家族が入院し、一人きりで自宅待機するうち、食料が底をつく。マスク着用をめぐるクラスメイトの各視点から描かれる短編集。

## わたしのアメリカンドリーム

ケリー・ヤン／作 田中奈津子／訳 講談社

ミアたち一家は成功を夢見て、中国からアメリカへやってきた。両親はモーテル（簡易ホテル）の管理人として雇われるが、仕事はきつく、お金もなかなかたまらない。モーテルのオーナーは口やかましくケチで、長期で滞在する黒人客やタダで泊りに来る中国人の移民仲間を敵視していた。

そんなとき、ミアは他のモーテルのオーナーになれるという情報を得る。条件は、作文コンテストの優勝だった。



## 彼の名はウォルター

エミリー・ロッド／著 さくまゆみこ／訳 あすなろ書房



遠足中のバスの故障で、コリンたちは物寂しい丘に取り残された。電波も通じず、一行は不気味な空き家で夜を明かすことになる。その家には『彼の名はウォルター』という本が隠すように置いてあった。孤児が魔女の孫娘に恋する寓話で、コリンは話に引き込まれる。ところがまるで読み進めることを邪魔するように怪奇現象が起き始めた。

# エブリデイ / サムデイ

デイヴィッド・レヴィサン／作 三辺律子／訳 小峰書店



〈A〉は特定の肉体を持たず、毎朝、違う体に憑依して目覚める。自分自身、何者かわからないAは、その日の宿主に影響を与えないよう、日々をやり過ごしていた。

ある日、ジャスティンとして目覚めたAは、彼のガールフレンドに強く惹かれ、自分の特性を打ち明ける。やがてAに憑依されたある少年が自分に起きた異変に気づき、Aを追い始めた。シリーズ二部作。

## 13枚のピンぼけ写真

キアラ・カルミナーティ／作 関口英子／訳 古山拓／絵 岩波書店

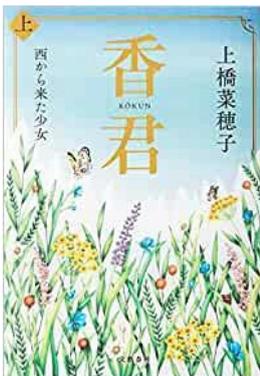
1914年、オーストリア＝ハンガリー帝国が始めた戦争によって、イオランダの一家はオーストリアでの出稼ぎ仕事を追われ、故郷のイタリアに帰った。その後、父や兄は軍に召集され、母は不当に逮捕されてしまう。二人きりで残されたイオランダとマファルダの姉妹は、戦火を縫って絶縁状態の祖母を訪ねた。初めは冷たくあしらわれるが、マファルダのユーモアに祖母は次第に変わっていく。



こうくん

## 香君 上巻・下巻

上橋菜穂子／著 文芸春秋



広大なウマール帝国は、香りで森羅万象を知る神、初代香君がもたらしたとされるオアレ稲の収穫で栄えていた。しかし、西カンタル藩王は栽培を拒否し反乱と見なされる。王の孫娘アイシャも毒殺されかけるが、植物が発する香りを「聴く」能力を見込まれ、香君のもとに送り込まれた。この頃、帝国全土には恐ろしい虫害が大発生する兆しが忍び寄っていた。香君とアイシャは阻止する手立てを模索する。